作品梗概集 7

＊初演年代は、原則としてデイエルコウフ＝オルスボエルに拠ったが、他の研究者の推定に基づく場合はその名前を年代の後に記した。

＊梗概集の後に索引を付した。

Rotrou:Les Ménechmes

ジャンル　五幕韻文喜劇
初演　　1630 年頃　オテル・ド・ブルゴーニュ座
出版　　1636 年
主な出典　プラウトゥス『メナエクムス』

プラウトゥスに取材した最初の作品で、三作中、原作に最も忠実であるとされる。ヴィオレ・ル・デュックはスペイン劇の好評に飽き足らず、古代劇導入に努めたのは評価できるが、人物像、習俗が描かれず、モリエール程の成功はなかったと言う。しかし勿論、完全な翻訳というわけではない。鈴木康司は登場人物が当時のフランスの習俗に抵触しないよう適度に矯正されたこと、加えて原作を凌いだ大団円の独創性を指摘している。1642 年頃の『クラリス』序文でロトルー自らプラウトゥスを「喜劇の父」とまで呼んで、傾倒ぶりが推測できるが、アダンは後のイタリア喜劇(具体的には 1642-47 年の『妹』)導入の口火としてもこれらを評価する。モレルは狂気の怒りの絶頂、古代劇では純粋にゲームであったものがここでは相互の自己同一性の移動になっている、美しい恋愛感情、取り違えと狂気の混合、外見の相似性による皮肉などにこの喜劇の特徴を見る。

〔第一幕〕
浮気なメネクム・ラヴィ Ménechme ravi は、食客エルガスト Ergaste に唆され、かねてより片思い中の美しい未亡人エロシーErotie に言い寄り、ダイヤモンドの髪飾りを贈って機嫌を取ろうとする。エロシーの頑なな態度は相変わらずだが、高価な贈り物が効を奏して、食事に招待して貰えることになる。エルガストもしてやったりとよろこぶ。エロシーは奴隷に食事の支度を命じて退場する。

〔第二幕〕

幼いころにさらわれて行方不明の兄弟を探すメネクム・ソジクル Ménechme Sosicle は、奴隷のメセニーMessenie を伴い、ラヴィのいる港町に流れ着く。六年に及ぶ旅に疲れたメセニーは主人があまりに朴念仁なのに呆れ返っている。エロシーの奴隷がそのソジクルを見て、ラヴィと取り違える。二人こそまさしく生き別れの兄弟、性格は正反対だが、顔がそっくりなのだ。しかし、そのことに誰も気付かない。そこへエロシーが登場し、ソジクルは彼女に一目惚れする。エロシーはソジクルをラヴィだと思っているから、彼の言動は悪質な冗談、もしくは狂気だと思う。話はどこまでも平行線なのだが、ソジクルはエロシーの言うとおりラヴィになりすまし、ラヴィから贈られた髪飾りを預かって、細工を直すことを請け負う。

〔第三幕〕

エルガストは食客の境遇を嘆き、さっきとは打って変わった主人の態度に腹を立てる。だが、エルガストが主人と取り違えているのは、実はそっくりのソジクルである。ソジクルは勿論、エルガストのことなど知るわけもなく、彼の怒りが理解できない。また、ラヴィの妻が恐ろしい形相で迫ってくるのに驚いて逃げ出す。入れ代わりにラヴィが現れ、妻とエルガストに吊しあげられる。ラヴィの味方のはずのエルガストはソジクルにされた仕打ちの仇をここで返そうと、主人に従わない。妻は自分のダイヤモンドがないのはエロシーにやったからだろうと問い詰める。ラヴィは咄嗟の言い逃れに、彼女が同じような細工のを欲しがったから見本に貸したのだ、として、堂々とエロシーの家のドアに消える。エルガストは奥方に報酬を約束される。ソジクルに髪飾りを渡したエロシーはラヴィにそれを返してくれと言われて怒りだす。ラヴィは皆から狂人扱いを受けて困惑する。

〔第四幕〕

ソジクルはラヴィの妻に責められ、訳がわからない。しかし彼は証拠の髪飾りをもっているので、逃げられない。妻の父で、ラヴィの舅にあたる老人が夫婦の仲裁をしようと現れるが、相互に言動が奇異だと思い、狂人扱いし合う。妻は助けを、老人は医者を求め、ソジクルは災難を避けるべく、退場する。医者を呼んで来た老人、妻はラヴィを拘束する。ラヴィは皆を狂気と思う。メセニーが抵抗するラヴィを助けるが、彼も主人がおかしいと思う。この機に乗じて、メセニーは解放を願うが、もともと自分の奴隷でないラヴィはあっさり許す。メセニーが宿屋に鍵を取りに戻る間、ラヴィは平静にしてくれる人物を求めて退場する。

〔第五幕〕

恋に取りつかれたソジクルにメセニーは鍵を返そうとするが、主人は奴隷を狂気だと思う。解放した覚えなどない。二人の前にエロシーがやってきて、髪飾りのことを問いただす。ソジクルは髪飾りは細工師のところにあると言ってエロシーの家に入り、残った奴隷は運命を嘆く。ラ

ヴィの妻とエルガストはメセニーを見付け、詰め寄る。互いに主人を取り違えている同士の混乱しきった会話の連続のうちに、何も知らないソジクルが出て来て、妻たちに責められる。いささか冷静になったラヴィは医者を連れて戻り、メセニーに礼を述べる。二人の主人に驚くメセニー。ついに兄弟は再会し、今朝からの奇妙な事態のすべてに合点が行く。皆、互いを許し合い、奴隷は解放され、食客は晩餐にありつくのだった。

時間はある日の朝から夕方まで、場所はエピダムニーの港町の辻(及び医者の家の前)、物語の主な筋は兄弟探し、浮気の発覚、恋愛成就の同時進行。

作品梗概集

（ローマ数字は掲載号、アラビア数字はページを示す）

Bidar: *Hippolyte* III 79

Boyer: *Ulysse dans l'île de Circe* III 95

Corneille, Thomas

: *Ariane* III 89

: *Bérénice* IV 83

: *Camma* III 88

: *Circé* III 98

: *Le Comte d 'Essex* VI 92

: *Darius* IV 85

: *La Mort d'Achille* III 9

: *La Mort de l'empereur Commode* VI 83

: *Persée et Démetrius* VI 85

: *Timocrate* IV 81

Corneille, Pierre: *Andromède* III 96

Desfontaines: *Bélisaire* VII 100

Desmaretz de Saint-Sorlin: *Mirame* VII 103

de Visé, Donneau

: *Les Amours de Bachus et d'Ariane* VII 107

: *Les Amours de Venus et d'Adonis* VII 106

Garnier: *Hippolyte* III 74

Gilbert

: *Les Amours de Diane et d 'Endimion* VII 105

: *Hypolite* III 78

Gougenot: *La Fidelle Tromperie* VII 96

La Pineliere: *Hippolyte* III 76

L'Hermite de Vauzelle: *La chûte de Phaéton* III 94

Lully et Quinault

: *Alceste* VI 88

: *Amalasonte* X 94

: *Astrate, roi de Tyr* X 96

: Atys VI 91

: *Cadmus et Hermione* VI 86

: *Thésée* VI 89

Mairet

: *Chryséide et Arimand* IV 63

: *Les Galanterie du duc d'Ossonne* IV 68

: *La Silvanire* IV 66

: *La Sylvie* IV 65

Pradon: *Phèdre et Hippolyte* III 81

Du Ryer: : *Alcionée* X 92

Rotrou

: *Agésilan de Colchos* VII 94

: *Amélie* IX 79

: *Antigone* VI 80

: *La Bague de l'Oubli* III 83

: *La Belle Allphrède* III 85

: *Belisaire* VIII 98

: *Captifs ou les Esclaves* IX 78

: *Célimène* VIII 84

: *Cleagénor et Doristée* IV 72

: *Clorinde* IX 81

: *Cosroès* IX 76

: *Crisante* VI 78

: *Diane* VIII 82

: *Don Bernard de Cabrère* VIII 80

: *Filandre* VIII 85

: *Florimonde* IX 82

: *L'Heureux Naufrage* VIII 93

: *L'Hypocondriaque ou le Mort amoureux* X90
: *Iphigénie* VI 81
Les Ménechmes XI 77
: *La Sœur* VII 102
: *Laure Persecutée* III 86
: *Les Occasions perdues* IV 70
Tristan l'Herrnite
: *La Folie du sage* IX 84
: *La Marianne* III 74
: *La Mort de Chrispe* IV 78
: *La Mort de Sénéque* IV 77
: *Osman* IV 80
: *Panthée* IV 75
: *Le Parasite* X 99